
時空という名の狭間を越えて・・・

片桐 蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時空という名の狭間を越えて・・・

【Nコード】

N4200F

【作者名】

片桐 蓮

【あらすじ】

もしもの話をしましょう・・・貴方は並行世界というものを信じますか？「人には無限の可能性がある」というのを一度は耳にした事があると思います。例えば、Aさんが忘れ物をしたせいでBさんが怒ったとしましょう。それが並行世界では、Aさんはなにも忘れ物をしていないのでBさんは怒らなかつた。というふうに、人の選択により差異が出て、全く違う結果になりました。つまり、その場その場の選択により同じ人物がいる世界でも全く違う道を歩んでる・・・。そんな様々な世界を総して並行世界と呼びます。こ

の話は、ある青年がそんな並行世界に飛ばされるお話です・・・。

プロローグ

初めまして、片桐 蓮と申します。

今回が初投稿となりますので、おかしな文章になるかもしれませんが皆様が楽しめるような小説を作っていこうと思いますので、これからどうぞよろしくお願いします。

もしもの話をしましょう……。

貴方は並行世界というものを信じますか？

「人には無限の可能性がある」というのを一度は耳にした事があると思います。

例えば、Aさんが忘れ物をしたせいでBさんが怒ったとしましょう。

それが並行世界では、Aさんはなにも忘れ物をしていないのでBさんは怒らなかった。

というふうに、人の選択により差異が出て、全く違う結果になりました。

つまり、その場その場の選択により同じ人物がいる世界でも全く違う道を歩んでる・・・。

そんな様々な世界を総して並行世界と呼びます。

この話は、ある青年がそんな並行世界に飛ばされるお話です・・・。

第一話：それで俺は時空を超える？（前書き）

感想は何時でもお待ちしておりますので

これから、よろしくお願いします。

第一話：それで俺は時空を超える？

俺、日野宮 海斗はとても困惑していた。

何故ならば……。

「なんで身長が縮んでんだよ……（焦）」

そう、目を覚ますと180センチ以上あった俺の身長が120センチくらいに縮んでいたのだ。

「一体何なんだよ……ここは、あの公園か……」

ここは、昔から知っている馴染みの公園で、昨日の夜も確か……。

「酒飲んで、この公園に寄ってそのままブランコに座って寝ちまったんだよ……」

いや、しかし何故身長が縮んだのだろうか？

「とりあえず、誰かに連絡するしかないか……」

と、ケータイを取り出してみると……。

「け……圏外だど!？」

そんな馬鹿なことがあるのか!？ケータイ料金はこの前払ったばかりだしこの辺の地域は

電波が途切れることが全く無いといってもいいくらいだ……。

「何かのトラブルなのか……？とりあえず家に帰ろう……」

で、帰ってみると……。

「あ、空地になってる……？」

そう俺が暮らしていたアパート（築5年・2DK）が無くなっていたのだ……。

「マジなんなんだよ……うぼあ!？」

いきなり、お約束のような新聞紙が飛んできて愕然とした。何故ならば……。

「にっ2000年だとおくく!!!!」

そうその新聞には2000年と明記されていたのだ。

「こっこれは俗にいうタイムスリップというやつなのか!？」

そうだとすれば……。

「家に帰らねーと親父たちがするじゃねーか!!!」

そして俺はアパートから少し離れた実家へ急いで帰った。

だが……これはタイムスリップ何かじゃなかったんだ……。

30分後・・・

「はぁ・・・はぁ・・・あと少しだ・・・」

後、家まで200メートルくらいのところだった・・・そこから・・・。

「あれは親父たちの声だ！おいおや・・・」

すぐに呼ぶのをやめて見つからないように隠れた。俺は呆然とした・・・。

「何で俺があそこにいるんだよ・・・」

そうあそこには親父とおふくろと俺、それと幼馴染の月埜 楓とその両親がいた。

「一体どうなってるんだよ・・・何で俺があそこにいるんだよ・・・」

ふと、俺は思い出した・・・確かこんなシチュレーションどこかで聞いたような？

「そうだ、小説で・・・確か・・・」

そうだとすると・・・俺・・・は・・・？

「並行世界って奴に飛ばされた・・・？」

俺にとって日常であって、非日常な生活が始まる・・・。

「ってか俺また小学生！？そんなんやってられつかあーーーーー」
「！！！！！！」

・・・のかなあゝゝゝ。

第2話：夢と新たな出会い？（前書き）

些細なことでもよいので
ぜひ感想をお願いします。

第2話：夢と新たな出会い？

突然で悪いが俺は今、非常に困っていた。何故なら……。

「おえっぷ……気持ち悪いい……うえっぷ……」

そう、今更だがさっき飲んだ酒がきているのだ。

普段なら、そんな事は起こらないのだが体が子供になっただけに、耐性が付いて

いなかったみたいなのだ。しかも……。

「ああ……周りがぐるぐるしてるう……おえっぷ……」

さっきは、気が動転していたようで気付かなかったが、全力疾走とか大声で

叫んだりしたせいか、その威力は倍増……つまり。

「も……もう無理……（パタン）」

倒れるという訳だ……ああ……意識が……遠ざ……か……る……。

「……ねえ・み!……なの!?!……ひ……ぎ……!……この……家……運び……」

何か・・・聞こえるけど・・・気持ち・・・悪・・・く・・・て・・・
・無・・・理・・・。

「約束だよ・・・海斗君・・・私の事を忘れないでね・・・」

「分かってるって・・・ずっと友達・・・だろう？」

「・・・友達・・・か・・・」

「??どうしたんだ？」

「ううん・・・何でもないよ・・・ねえ海斗君」

「どうした？」

「ちょっとだけ、目を瞑ってくれない？」

「???何でだ？」

「・・・ダメ？」

「いや・・・別にいいが・・・これでいいのか？」

「うん・・・んっ」

「!!!!!!」

「私のファーストキスは海斗くんって決めてたんだ」

「・・・やっぱり高校卒業したらまたアメリカに行くのか・・・？」

「うん・・・でも諦めないから・・・」

「えっ・・・？」

「アメリカから帰って来たら、海斗君が振り向くような女性になれるようになるからね!!」

「・・・はっ・・・楽しみにしとくよ」

「・・・つつう。懐かしい夢を見たな・・・って。

「ここどこだ・・・？」

そう・・・周りは豪華な内装で自分が寝ているベットも高級品だ・・・。

「ってかこの部屋は！？まさかここは・・・」

ガチャっ・・・キィ~~~~ボタン!!

「あら、目を覚ましたのね・・・よかったわ。心配したのよ？」

そこには夢の中の少女・・・公苑寺　紫の母・・・紫がまだアメリカの

有名な小学校からそのまま同列の中学校に進む前に亡くなった公苑寺　灯さんがいた・・・。

紫にて美しい容姿とサラサラのロングヘアだった。

「僕には悪いけど色々調べさせてもらったわ・・・御免なさいね」

そう言って、僕の財布とケータイを返してくれた・・・。

「色々と質問させてもらってもいいかな？」

灯さんは優しく微笑んでそう言った。

「・・・はい。分かりました・・・けどこの事は他の人に決して言わないで下さい」

「分かったわ・・・約束する」

「ありがとうございます・・・俺の名前は財布の中に入っていた免許証のとおり、

俺は・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4200f/>

時空という名の狭間を越えて・・・

2010年10月28日04時31分発行